

トータル・ソリューションで成長市場取り込む 車載カメラ向け伸長、2Qを底に収益回復へ

テックポイント 小里文宏最高経営責任者兼取締役社長に聞く



上場1年銘柄に注目

監視カメラや車載カメラに搭載される半導体の設計・開発・販売を手掛けるテックポイント（6697・東マ）。9月29日に新規上場から1年を迎える。これまでの歩みを振り返るとともに今後の展望について小里文宏最高経営責任者兼取締役社長に聞いた。

― 足元の業績について。

「今12月期第2四半期（2Q、1～6月）の業績は、売上高13552・3万が（前年同期比11・4％減）、営業利益24・8万が（同93・3％減）、純利益67・4万が（同72・1％減）だった。データを受信する映像記録装置（DVR）の動画圧縮規格が今年1月から新規格に移行。この影響で在庫調整が発生し、新製品の出荷数量が予想よりも減少したことが要因に挙げられる。また、想定範囲内ではあるが、半導体業界全体

た」

「ただ、今回の技術規格の移行は10年に1度のことであり、在庫調整は3Qから終息に向かっている。また、半導体の平均販売価格の低下も年内に一段落する見込みで、既に最悪期は脱したといえる。今期の業績予想としては3Q、4Qともに四半期で過去最高の売上高を更新する計画。来期以降は回復基調を見込む。足元では車載カメラ向け半導体の採用が進んでいる。売上高比率は前年同期の8・1％から14・7％に上昇したが、期末（10～12月）にはさらに25％超まで伸びる見通し」

― 今期は研究開発費を1・5倍に拡大しています。

「開発案件は順調に進捗よくしている。音声対応の受送信半導体は4Q中のサンプル出荷を予定。また、

4K解像度に対応したISP製品と液晶ディスプレイコントローラーは現在サンプル出荷中で、ともに4Qからの貢献を見込む。最も注力しているCMOSイメージセンサーは来年3月からサンプル出荷を開始し、来期の4Qごろから業績に貢献してくる予定」

― 事業環境についてお聞

かせください。

「監視カメラ・車載カメラともに、これから成長していく市場と考えている。監視カメラは年率で約15％の伸びを続ける安定的な市場。特に先行する中国などに比べると日本は成長余地が大きい。車載カメラは将来的に、自動車の前後・各コーナーに設置した車載カメラの映像で周囲の状態を確認できる「サラウンドビュー」が主流になっていく

と予想される。自動車の生産台数が年間約1億台と考えると、必要となるカメラの数が一気に拡大することとなる。これは安全確認の用途だけではなく、街中の監視カメラの代替となるモバイル監視カメラの役割も兼ねるといわれている」

― 米中貿易摩擦の影響が懸念されていたが、当社の製品および当社顧客

の製品は関税品目の対象となっており、業績への悪影響は発生しない。当社の売り上げの6割を占める監視カメラ市場最大手のHikvision（ハイクビジョン）についても、良好な取引関係が継続している。な



「監視カメラ向けについては、半導体からセンサーまでを一気通貫供給するトータル・ソリューションを目指す。当社ですべての部品をカバーできれば、顧客の製品開発を包括的にサポートすることができ。特に高い技術力を持たない小口顧客からのニーズが高い。車載カメラ向けはさまざまな用途向けにラインアップを拡充し、収益拡大につなげる」

企業名	テックポイント
事業概要	監視カメラ、車載カメラ向け半導体の開発・製造・販売
上場日	2017/9/29
初値	1072円